THE WOMAN'S WEEKLY

（大正四年十一月四日第三種郵便物認可
大正五年三月十七日発行）

第貳巻　第十二號

毎週金曜日發行

婦人週報

定價一部四錢五厘

郵送料五厘

本號目次

□現今の少女氣質か……小橋三四子
□時事週評……
□一人一評――箕浦富士子を……
□婦人と天職の自覺……
▽運命の產物……矢島揖子
▽初めは生活の爲め……羽仁もと子
▽歐化主義の刺戟……吉岡彌生子
□名士と其母（二）島田議長……
□變つた卒業生……
□英國への一人旅……白菊女
□風邪素人療法……澤田斬雲
□一燭光の電燈……近藤數訟
□御値ごろ小賣……
□春先の洋傘の手入……くれは子
□今週の惣菜……櫻井親子
□世界史お伽譚「アライオン」（完）……
□名女傳「ウオズオズの妹」……
□小説「何處へゆく」……松本雲舟
□新刊紹介……時事……女學校だより……編輯室より……

婦人週報社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

▲ダリヤは現世花界の寵兒なり!!

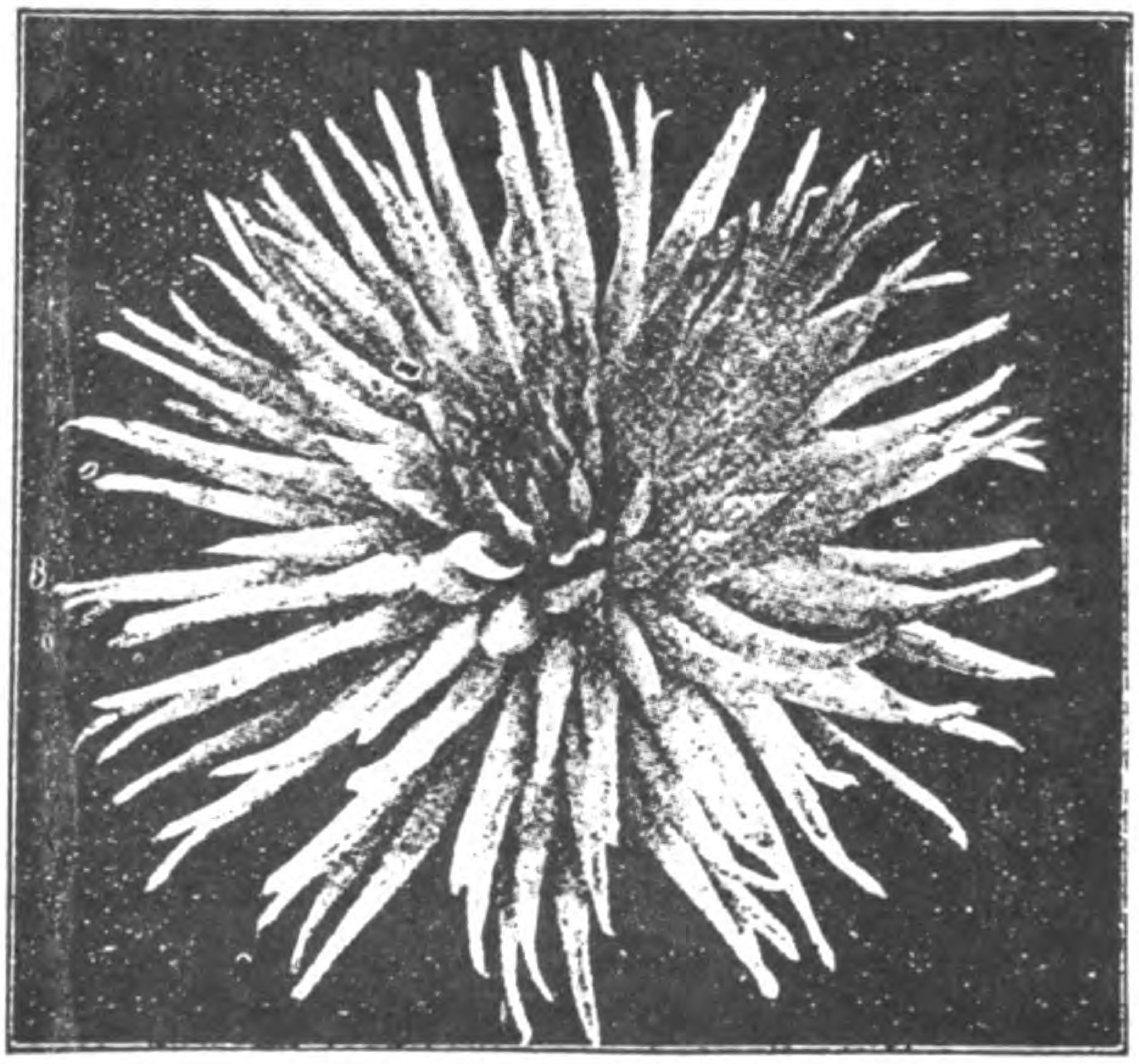
○一般園藝植物培養

貸鉢。鉢植。切花。

花束。花環。盛花。

○一般花卉裝飾調進

▲花卉園藝は最も向上せる娯樂!!



毎歳新種名花を直輸入す

新裝カタログ御申越次第進呈

東京市外高田村(目白驛北一丁)

富春園

振替(東京)三〇七二一番

花卉種子、球根直輸入販賣

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今の少女氣質か

□突飛な少女の行爲

部下の貴重な新聞紙が、過る週間は、突飛な少女の行動を掲ぐること二三にして止まりませんでした。曰く十六歳の小學校生徒が血書して宙返り飛行を志願したとか、曰く一圓の金を懷中にして、十五の少女が女優志願の爲渡米を企てたとか、十七の田舍娘が燃ゆる功名心に驅られて、當もなく東京に飛び出して、奇特な人の救ひに危く虎口を逃れたとか云ふ記事が頻々として目に止りました。

□時代の感化を受け易い時

少女時代の十五六歳が女の一生中で一番發育の盛んな時であると申します。從つて外界からの刺戟を强く受くるのも、この時代であります。近頃も或る奥樣と閑談の末、女中難に及んで、日清戰爭、日露戰爭等、日本の一大事を劃して、その時代に發育盛りであつた者は、多少共通の性質を持つて居るやうである、今の若い者は浮薄で困ると教師は云ひ、今の女中は不忠實で、利己に傾いて使ひ難いと奥樣方が申されるその若い人々は、日露戰爭後の萬事急劇に膨脹した華美な日本の社會に哺れた爲めでもあらうかと申した事でした。

□正面に受けし社會の俤

二三の新聞に現はれた記事を以て、直ちにその時代の少女氣質と見るは速斷に過ぐるかも知れませぬ。然し少女の飛行熱や、女優志願熱や、功名熱の一端を見て、餘りに現今の社會の反影を正面に受けて居るのに、驚かざるを得ませぬ。かやうに幾多の柔かい頭腦に日に〳〵社會の俤を繰り返して縮寫されつゝ、次代の國民性はどんなに變つて行くでありませうか、推測するに難くはありませぬ。

□進歩の前の脱線か

物が勢よく進む際には、多少の脱線や危險の伴ふ事は免かれませぬ。因循な日本婦人が、一躍舊習を脱して、快活な世界的な婦人になる前には、隨分失敗も繰り返さねばなりますまい。突飛な少女の出る程に元氣付いた日本の婦人界はまた喜ぶべきものかも知れませんが、その突飛さ加減が、いかにも根强からず、力の入れ處の間違つて居りはせぬかと考へる時、指導の地位にある者の一考を煩はしたい事であると存じます。

□社會の風潮に逆行しても

指導者がいかに骨折つても、社會の風潮の感化を如何ともする事は出來ないと申さるゝかも知れません。いかにも社會に逆行する事は困難な事には違ひありませぬ。然し少女の信ずる親や教師が彼れ等を常に批判的に導くやうに務め、絶えず確實に批判の標準を與へるやうにしたら、滔々たる惡風にも打ち勝つて行く事が出來やうと存じます。例へば少女に新聞や雜誌を讀んではならぬと禁制するよりも、賣らんが爲めに誇張し捏造した記事を時に示して、新聞雜誌からの事實の讀み方を教へ、或は記事に表はれたる事實を批評して、判斷力を練つて置く等に務めたら、輕々しく風潮のまに〳〵移つて行く危險はなからうと思はれます。

□社會も亦教場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

過る日小學に教鞭を執らるゝ方が熱々と憤慨して、今日の女教員が社會の出來事に、迂遠な事は、思ひ半ばに過ぐるものがあります。「けふは皆が胸に花をつけて居たが何でせう」「電車に旗が建てゝあつたが何でせう」と云つた調子に、耳元で大騒ぎして居る事すらも知らずに居る況して新聞雜誌は殆ど手にだにしないといふ有樣ですと話さるゝのを聞いて、殆ど信ぜられない程に思はれました。教師は教科書以外の責任は無いと感じて居るならば、社會の濁流は遠慮なく襲ひ來つて、いとしの教へ子を溺らして終ひませう。母たる者も亦教師と同樣、家庭、學校と共に、社會がわが子女の教場である事を忘れては到底完き教養は出來得べくもないと存じます、(三四子)

時事週評

▲商船の臨檢　英國軍艦が多くの日本商船に停船を命じ、空砲ばかりか、實彈を發射したりしますので、大分世間は騷いでゐるやうであります。英國に一目も二目も置いてゐる日本政府は、これをどうすることも出來ないでせうが、日本國民の英國に對する感情はこれがために益々惡くなるでありませう。同盟國民にさういふ惡感情を起さしむることは決して英國の利益ではありますまい。

▲米墨の關係　米國では墨國の叛將ヴィラを援護するために遠征軍を出すやうですが、然うなつては墨國の主權は全く消滅したと申すべきでせう。要するに墨國は次第に米國に併合せられる運命にあるのかも知れません。

▲可憐なる高木德子　トーダンスで名高い高木德子は今度離緣の訴訟を提起したさうです。德子の告白する所によると、德子は十五の春夫高木と結婚しましたが、高木は所謂米國ゴロで、全く欺僞にかゝつた事を知りましたが、殺すの、生すのといふ威赫文句に、毎日の虐待を忍んで來たのださうです。夫高木のさういふ惡德は到底改まる見込みがないので、遂に訴訟を起したのださうですが、いかにも氣の毒な次第です。惡い男にかゝはりあつた女の弱さが、つくゞ〱と思はれます。弱い女を保護し、惡い男を懲しめる法律がもつと完全になる事を望んで止みません。世間には、惡い男に脅迫されて、訴ふる處もなく泣いてゐる女が德子のほかにも澤山あります。さういふ人達を眞に憐れみ救ふやうな機關が政府に依つて作られることが必要でありませう。

繪卷物

安中花子

君がなみだ君がほゝゑみ此のごろは繪卷物ともながめてありぬ。

カナリヤは小窓にうたふ、心より喜ぶ幸を思ひ知れよと。

あやしうも燃る心を力なく見つむる夜こそうらがなしけれ。

海見れば足よろめきし其のかみの幼心もなつかしきかな。

此の心やゝにぶからば慰まむ、唯有る儘に世はながめてむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（一人一評）

箕浦富士子

一

世の中に令名はある。が、若し何故に令名が人口に膾炙してをるかと云へば、誰も其の應答に困るであらう。さう云ふやうな逓信大臣箕浦勝人君に連添ふ富士子夫人が俗世間に名前の知れてをらぬのも無理からぬ次第で、恐らく箕浦夫人には政治家の妻なるが故に、大臣の令夫人となつたが爲に、その名を世の中に布きたいと云ふやうな慾望も、野心もないであらう。富士子夫人が實相寺家から勝人氏を婿君に迎へて四十餘年。この間に缺乏を感じたこともあらう、苦しかつたことが無いでもあるまい。而して數人の子女をも養育した。が、不斷に富士子夫人は勝人氏の内助者であると云ふことを忘れなかつた。如何なる時にも、家庭内の事を放棄して、その良人に盡すやうなことをしなかつた。それ故に世間に『箕浦富士子』の名を記すものが多くないのである。併し吾等は箕浦氏の主管事務として簡易保險法案が第卅七議會に提出された時、遽かに富士子夫人を思出さぬわけに行かなかつたのである。

二

箕浦逓相を出した大分縣下に『嫁は臼杵から貰へ！』と云ふ俗諺がある。が、その臼杵とは箕浦氏夫妻の故郷で、山本達雄君も此の臼杵に生れた人である。何故に嫁は臼杵から貰へと云ふかと問へば臼杵の女は、最も經濟思想に富んでをる而して其の良人の事を思ふ情よりも深く一家の經濟と云ふ事に心すると云はれてをる位である。が、此臼杵の女が經濟思想に富んでをる許りでなく、男子も亦經濟思想に富み且つ消極主義を信奉する。山本達雄君などは其の好典型であらう。此臼杵人が經濟思想に富んでをるのには理由がある――藩政時代に窮乏して、その窮乏を救ふ爲に村瀬吉義と云ふ財政家が出で、大に消極主義を奨勵した結果は、唯だ一時の窮乏を除いた丈けでなく臼杵藩の上下を經濟思想の裕なものにした。而して『嫁は臼杵から貰へ！』と迄も云はれるやうになつたのである。

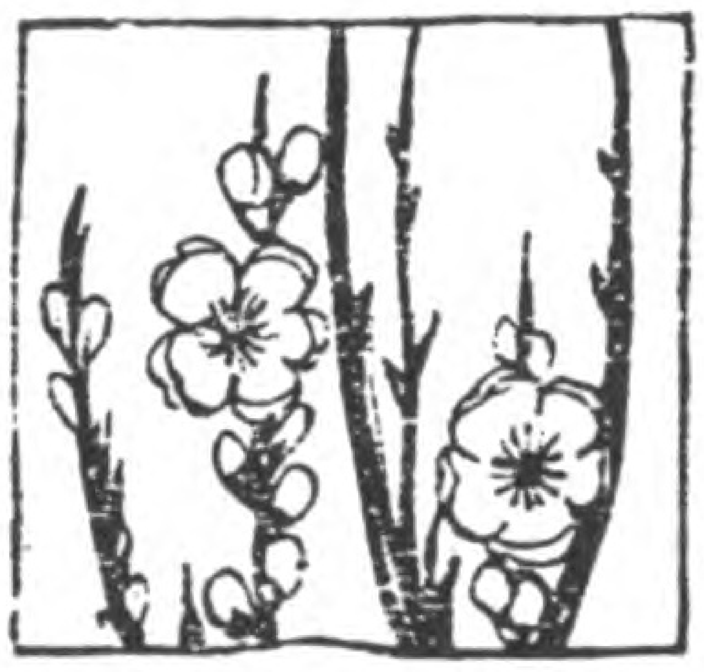
三

かう云ふやうな雰圍氣の裡に人となつた箕浦氏が逓信大臣として簡易保險法案を提出したのは最も興味あることである。が、更に家庭に於ける青洲翁を見る時は如何にも面白い。大抵の政治家が貧乏を看板にし、借金を誇るにも拘らず、箕浦氏のみは左様でなく、素より清貧を樂しむとは云ふもの丶他の政治家のやうに火の車を廻す必要のなかつたのは、主人公が臼杵人に特有の經濟思想の持主であつたと共に、又其の内助者に富士子夫人のあることを忘れてはならぬ。而して此の令夫人あつて箕浦氏は今日の成功の大部分を築くことが出來たと云ふても、或は不可ないであらう。

かの簡易保險ならぬ簡易生活は、箕浦夫人の五十餘年間の主義であり、モツトーであつた、不斷によき妻であり、最もよき内助者たるが爲に、決して富士子夫人は虚名を求めなかつたのである（冬湖生）

三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



婦人と天職の自覺

主義を一貫した先輩の經驗
精神の注ぐ所必ず實を結ぶ

運命の産物

婦人矯風會長　矢島揖子

△不幸な結婚

私は廿一歳の時他家に縁付きましたが不幸にして夫が大酒家であつた爲め、常に家庭の平和を破り、子供の教育は出來ず、終には命迄も危く致りました。「夫が酒さへ飲まなかつたら」と思つたので、どうかして止めさせ度いと考へ、當時酒害等といふ事は一向辨へない私は、酒の飲めるのも性質、飲めないのも性質、その飲めない性質の私が、飲める性質の夫に連れ添つて居るのが間違ひと、終ひには無理に盃を手にして飲み習ひましたがその爲め、非常に健康を害ひ、片眼を惡くし、次第に全身を弱らし、十年辛棒の曉、とう／＼三人半の子供があつたにも拘らず復籍する事となりました。この結婚の初めを考へて見ると、自分は一向に望まず、家族や親戚の勸めの默し難くて參つたのでしたが、この一事で、自分の望まない事をするのは、人間として一番弱いことだと感じました。

△福澤翁の「西洋事情」

十年辛苦を嘗めた家を後にして、三十里の路を一人の子供を連れて籠で送られて參りました。最初養生かた／＼止つた家は竹崎といふ姉の縁家の、海邊に百姓をして居る家でありました。この竹崎の主人が福澤翁の西洋事情を讀んで、「あなたの喜びさうな事が書いてある」とて、讀んでくれたのは「西洋には小學校に行かない幼い子供を集めて、樂しく遊ばせながら善い道に敎導する幼稚園といふのがある」と云ふ事でした。これを聞いて勃然として望みを起して、今後は幼兒の敎育に當らうと決心しました。

四

△リビツド夫人に會ふ

後四十の歳に上京して、折柄開催中の東京府の小學校敎授法講習會と云つたやうな處に入つて學びました。その時生徒を上中下と分つて、下の部に入る白痴に近いやうな子供の家庭を調らべて見ると馬車で通ふやうな家もあり、裏長屋に住つて居るのもあるが、何れも昔はいかゞしい事をした女が母であつたり、或は親が酒飲みで、風儀を亂した結果といふのを目撃して、自分の經驗に照らして、愈／＼酒害退治の必要を痛切に感じました。恰もよし、萬國婦人矯風會派遣委員のリビツト夫人が來朝し、熱心に矯風主義を主張したので、喜んでこれに連り明治十九年に矯風會を組織し、敎育と共にこの事業に盡瘁する事となりました。

△私の母の結婚

私の家系を考へて見ますと、父方も母方も代官で、利己の爲めより他人の利益の爲めに働らいた者でありました。その昔祖父が夫婦連れで伊勢參宮に參り、外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宮にある太鼓橋を見てハタと手を拍ち、自分の郷里で毎年出水で苦しむが、このやうな反り橋を架けたらよからうとて、早速家に歸つて自費で橋を架け始めました。母方の家は堤防橋梁の係りと云つたやうなお役人で、時折川下から上つては工事を檢分に來ました。かやうな近付きから、兩家の息子と息女の婚儀が成立したのが、私の父と母でありました。それ故私が社會的に働らくといふ興味は、遺傳の力も加つて居りませう。然し前半生の失敗に鑑みて、自ら信ずる主義の下に一貫して働らき續けた其處に强味があると存じます。そして何事も精神の注いで居る處に實を結ぶものである事を、熟々と感じます。

初めは生活の爲

婦人之友主筆　羽仁もと子

△雜誌に緣を持つた初め

小學校時代から作文の點は惡くはありませんでしたが、他の學科より頭拔けてよく出來た程でもありませず、殊に同級の男子などの書いた言葉に富んだ作文などに比べて見ると全で能力の違つた人の樣に感ぜられた位でしたけれど、府立第一高等女學校から明治女學校へ進んだ頃からは、友達などへ色々其折々の自分の生活を書き送つたりして、自分の心を有りのまゝに書く事丈けは出來た樣に思ひます。丁度其頃岩本善治さんの女學雜誌の校正を賴まれたりして、雜誌と云ふものに緣を持つ樣になりましたけれど、自分が「書く人」にならうとは少しも思ひませんでした。

△物を考へる性質

けれども私は人一倍もの、を思ひ、もの、に感ずる性質でしたから、學校の寄宿舍などに居りましても、人望のある人が必ずしも正しい人とも思はれず、數字で學科の出來る人必ずしも頭腦の良い人ではないと云ふ樣に、物を疑い深く考へる事はありましたが、元來正直者で文學的な筆をとる事などは出來ませんでした。明治女學校を中途で退いてから盛岡の天主敎の女學校へ行つて敎鞭を執る身となりましたが、不思議な尼僧さんの生活や、新敎と舊敎の問題などを考へたりするばかりで筆執る氣もなかつたのです。

△初めは生活の爲めに

其後又東京に歸つて、築地の天主敎の小學校に敎へてゐた頃、國から弟が來たので生活費の補ひとして學校以外に仕事を求むる必要が起ると、折柄報知新聞の職業紹介欄で、同新聞社の校正係を求むと云ふのを見て、早速まゐると受附の爺さんが「あれは男でなければ！」と申しましたが、兎に角願書を置いてくると、其當時の主筆は田川大吉郎さんで、私の經歷などから適當と認められてか、採用して下さいました。此校正に從事してゐるうちに、何か書いて見たいと思ひ、鄕里（青森縣八戶）の豆腐屋の息子で高僧になられた西有穆山さんの事を書き、三面（社會面）に一ケ月程連載されました。そして此記事の終る頃から三面の記者となり、諸々へ外交に赴く樣になりました。

△一番苦しかつた事

初めは生活の爲めに入つた新聞社なるものに働いて居る間に、社會の色々な事を見聞すると、世の中には知られてゐぬ事で立派な事、傳ふべき價値のある事の多く、また持囃されてゐる事物でも案外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下らぬ無意味なものである場合の多いと云ふ事などを滲々と感じられ、之れ等の事を眞正に報道する事こそ新聞記者の天職であると云ふ自覺を以て、筆を執る樣になつたのでした。其以來自分の爲しつゝある事が下らぬ事と思つた事もなく隨つて他の仕事に移らうなど、思つた事はありませんでしたが、唯記者をして居るうちに、紹介として頂いたり何かしてお世話になつた人から、何か特別に其人の利益となる樣な記事を書いてくれと賴まれた時、其れを承諾して書けば天職と信じた仕事が腐敗して終ふと思ひ、斷然お斷りすると云ふ時が最も苦しいと思はれた位の事です。

△筆執る主義

其後、家を持ち子供が出來ては自然新聞社に働らいて居る事も出來なくなり、退いて後雜誌「家庭の友」などに書いて居りました。新聞社時代から博文館の「女學世界」や金港堂の「婦人界」などに原稿を寄せて居りましたが、何時も眞に自分で感じた事でないと筆にせず、徒らに文を賣る者とならぬ樣に努めました。それから現在の「婦人之友」を出す樣になりましても、此主義を棄てはいたしません。然し一見して讀まれ易くする必要があると思ひまして、畫を多く入れたりして居りますが、媚びる樣な記事を載せる事はいたしませぬ。

△一と通りならぬ苦心

學校時代の友達などが、私に自分の好きな仕事をして居るのだから樂でせうなど申す事がありますが、道樂で致すのではなく、眞面目の仕事としていたす事ですから、御飯を食べる時も寢てからも思ひ煩つて、如何にせば正しく自分の言はんとする處を言ひ表し得るかなどと苦心は一通りでございませぬ。

歐化主義の刺戟

東京女子醫學専門學校長　吉岡彌生子

△十七までは嫁入仕度

私の家は遠州掛川町から二里ばかり離れた土方村と云ふ淋しい部落に醫者を業として居りましたから、兄二人は父の業を繼ぐべく早く上京して醫學を修めて居りましたが、七人の妹を有する私は、物心づく頃から着物を作るにしても、自分のものと云ふよりは、先づ妹共のを〳〵と思ふ位で、十七の年まではお嫁に行く氣で機も織れば裁縫もすると云ふ風に嫁入仕度のつもりで總てをいたして居りました。けれども、糸を繰つて機を織つて裁縫をして一枚の着物を作り上げて見ても、馬鹿につまらない事の如うに其頃の私には思はれたのでした。

△歐化主義に刺戟されて

丁度私が十五、六才の頃から、例の歐化主義が盛んになり、其頃私の村では役場と醫者たる自分の家位が取つてゐた新聞や、國光社から發行されてゐた「女鑑」雜誌上に見える三輪田眞佐子さんの自由な快活な文章などから、色々な刺戟を受け、何んだかお嫁に行つてゐては間に合はぬ樣な氣になり、生意氣に解りもせぬ政治論などを上下し、伊藤博文さんを寢ごとに呼んだりするまでに發つて來ました。憑うなると今迄の如うにお嫁の準備ではなくて、色々と考へる、殖産工業など云ふ事も考へられましたが、其頃女子の専門學校と云つては高等師範位のものでしたから、村の男で高師を卒業した人が歸省した時、女高師の入學試驗程度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を訊いて見ると、却々變則な學問をした私などに入れさうもありませんから醫者の學校ならば親達も賛成してくれるであらうと思つて、愈々其決心をなし、兩親に相談すると却々承知してくれません。それが私の十七歳の時でしたから、田舍ではそろ／＼婚期になつて居たので親達から色々に話があつたが、私は頑として應せず、睨み合の姿で二年間をすごしました。此二年間が今迄に一番苦しい時であつた樣に思はれます。

△獨學自修の二ケ年

から親達と睨み合つて暮してゐる間にも、村一番の漢學の先生にそつと敎はりに行つたり、夜行燈に布呂敷をかけて物理化學などを獨學してゐましたから親は流石子には甘いもので、私の氣休めに位の考でか、東部遊學を許してくれました。忘れもせぬ明治廿二年の四月八日――十九歳の私が兄に伴はれて、其月の十六日には東海道鐵道が全通すると云ふのを待ちも得せず、上京しました。

△一年後には前期合格

直ぐ濟生學舍に入學すると、女席には十五六人の女子がゐて、前期男生五百人位と同じ敎室で敎授されるのでしたが、私は其當時、肥つてゐたので、男生の前を通つて女席まで行く時、「ヤア小錦！」田舍者少々驚かされずにはゐられませんでした。初めの程は講義も錄々解らず不安があつたが、隨分無理な勉强をして翌年の五月には前期の試驗を合格すると云ふ段どりになつたので、今迄何が出來るものかと思つてゐた國の方でも今度は本式になつて來ると云ふ次第でした。

△女醫學校創立の動機

右の如く、私が醫者になつた動機と云ふものを求めれば、歐化主義の思想に刺戟されたと云ふ事であるかも知れませんが、女醫の學校を開いたについては直接の動機がありました、それは私が濟生學舍に居りました時、實地演習とて屍體について研究する時には、女子の出席するもの私一人で、先生が助手をして下つた位、患者を診察するにしても男子が五人見る中に女子は一人しか見ぬと云ふ風で、また男女共育の爲め、少し女らしい女だと非常に損をすると云ふ事實が其一つの理由で、又風規問題も其一つであります。

明治三十一、二年頃、私は既に開業して女の書生を二人ばかり濟生學舍に入學させますと、男學生が後をつけて來ると云ふ樣な次第で、同學舍は風規上から女子の入學を杜絶して終ひました。其頃濟生學舍には百餘名の女生徒があり漸々增加して來る傾向であつたのに其道が絶えたのは甚だ遺憾であると思ひ、微力ではありましたが、將來女子の醫學に志すもの丶爲めにとて、醫學塾を開いたのが明治三十三年の十二月でありました。

△競爭者の出現

すると翌年四月、濟生學舍で敎はつた先生が、女子醫學研究所と云ふのを設けたので、私の方の生徒はぞろ／＼其方へ去る、少し生徒が出來たかと思ふと又其方へつれてゆかれると云ふ始末で隨分困りましたが、私の方は何處までも敎育者として立ち、先方は、寧ろ學校屋と云ふ風でありましたから二年位で倒れて終ひました。夫から現在の牛込河田町に移る迄には二三年間がありましたが、私は始めから今日まで、別に大した逆境と思はれる事にも出遇はず進んで來たのです。

七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

名士と其の母（二）

衆議院議長　島田三郎氏

□

私も母に對しては常に感謝を以て追憶するもので、今日までの生涯は、母に負ふ所が多かつたと思ひます。私の父は江戸幕府の賄方と云ふ低い役で、旗本が士ならば、先づ卒と云ふ格でありましたから、其生活も低く困難でした。私は其三男に生れ、嘉永から安政にかけて育てられたのです。赤坂一ツ木に土地七十坪をもらひ、二十俵二人扶持と云ふ些細な食祿で、我々四人の兄弟は養育されたのであります。

□

其頃、士のうちの心あるものは、月謝なしに文武の藝を敎へて居りましたが、目前の利にのみとらはれた父兄は、子弟に内職などをさせて修養の時を與へませんでしたけれど、私の父母、殊に母親は私共兄弟には内職などをさせず、專ら文武の道を修めさせ、世に出る時の用意をさせてくれました。他のものが内職をして、よい衣服を着、美食をする時に、私共は粗衣粗食して、時あらば書に親しむ樣仕立てられたのでした。惡衣惡食を恥るものは共に語るに足らずと云ふ風の母は、極めて壯健で、餘り小さい事に氣をもまぬ方でした。

□

母は至つて勤勉、努力家で、遊ぶ事の嫌ひな、自活の念の強い人でした。また正直に淸く世に處すると云ふ事も其心でありました。一言にして云へば泰平三百年の江戸時代の風潮に染まない前の三河武士の樣に養育されたのでしたが、之れが爲め、良風俗を破るものばかりだつた當時の音樂などを少しも味ふ事をいたしませんでしたから、今尚私には耳の訓練が缺けて居るのだと思ひます。

□

十一二才の頃から、六百石の旗本、森川と云ふ人の家に世話になり、同家の庭掃除したりして働く傍ら、漢學などを敎はりました。其時分から母とは離れて暮しましたが、明治になつて、八十才の高齡で死去する迄、時々は私の所へ遊びに來ました。

□訪問の朝　島田議長を中六番町の御自邸にお訪れしますと　絹の如うな春雨に、しつとりと落ちついた氣分の漂ふお庭をながめられる居間で、數多い新聞雜誌に目を通されてゐた氏は、有名な快辯で、幼なかりし頃の思ひ出を右の如うに語られました。勤勉、努力、正直、淸廉、さう云ふ諸德を有たれた母堂から、氏の如うな努力の人、淸廉の士の出でたのは、決して偶然ではないと思ひつゝ、氏の廣い額に刻まれた奮鬪の趾の幾筋かを眺められたのでした――記者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

變つた卒業生

都下の女學校を見渡して

△萬年町出身の女子大學卒業生

都の一隅に世の廢者が群れを爲して、細い煙りも立て兼ねて居る部落があります。萬年町と云へば、その代表的のものであります。此處に在る唯一の特殊小學を終へ、アズバン女史といふ米國婦人の助けを得て更らに高等の教育を受ける事になり、女史の營む宏壯な洋館の寄宿舍に褞袍を着たお父さんに送られて來た小山まつ子さんは、螢雪の功空からず、この三月は女子大學英文科を卒業する事になりました。進んだ理想と高い生活に馴れたまつ子さんは、出身地に歸つて定めし苦しい事が一しほであらうと思ふがまたこの人を俟つて怠惰に馴れ、氣概を失つた社會に一道の光明が輝くことであらうと思へば頼もしいことです。卒業後直ちに洋行するといふ事は誤聞で尙暫らく勉學を續け、目下歸米中のアズバン女史の來朝を待て其方針を定むる由です。

△朝鮮留學生玄貞子の卒業

今年女子大學附屬高等女學校を卒業する玄貞子と呼ぶ朝鮮婦人があります。今から五年前二人の日本婦人が彼の地に遊んで、その貴族女學校を參觀すると、當時學監であつた淵澤能惠子女史から今後の朝鮮の女子教育はどうしても同國人が當らねばならず、それには卒業生の優秀な者を日本に留學せしめたいとて、留學費募集につき懇篤な頼みがありました。そこで二人は歸國以來廣く寄附金を募集して、金千圓を得目賀田男爵夫人にこの金を依托して早速留學生を呼ぶ事になりました、その撰に當つて三年前日本に參つたのが玄貞子さんであります。十五歳の時から日本語を學び初めたと云ひますが今では隨分流暢に物語り、歷史、數學の成績も優れて居るさうです。同史の父は六十一、母は四十八といふ朝鮮にしては年老いた家の一人息女でありますが、歸國後は必ず同國婦人の指導者となつてめざましい働らきをする事でせう。

△四十歳で英學塾を卒業

女子英學塾を卒業される筈の望月あさ子さんは四十歳になる晩學生です。海軍々醫の未亡人ですが、數人の子女は既に女學校へ通ふ程に成人されましたので、曾て女子學院に學んだ夫人は、無爲に暮すを潔よしとせず、別段生活上の必要にかられたと云ふではなく、眞の篤學な心から英學塾に學ばれたので、奇特な婦人と云はねばなりません。

△一子を養育する爲めの裁縫教員

女子美術學校の裁縫高等師範科を卒業する小出てい子さんは、三重縣の人で、津市の女學校を卒業されてから家庭の人となられたが、數年前夫が亡くなられたので、忘れ形見の一男を養育する爲め、將來教員をしやうと云ふ目的で、三年前同校に入學も、今度三十四歳で卒業されるのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英國への一人旅（一）

白菊女

これは英國へ留學を命ぜられ、一年斗り前に歸朝された菜女史の旅日記です。光榮あるこの行も馴れぬ一人旅にどれ程の憂き事つらき事を嘗められましたか、後からは赤毛布さんをかしい思ひ出の種子も、眞に命がけの〱行さ見れます。

□ビスケーの怒濤

英國と云ふ所に着くのは何時の事やらと、丁度月の世界へでも旅立つ様な遠い〱氣分で邦を出ましたが、日數積もれば爭はれぬもの、萬里の波濤殘りなくかけり盡くして、今日（大正二年一月十五日）船は、こゝ英國ローヤルアルバートドックに定期より一日早く錨を降しました。「船が着いたら何分宜しく〱」と豫ねて會社本店の何某様より倫敦支店のさる方様へ、折り入つての賴みの手紙を差し上げた事なれば、早く着かうが、遲く着かうが、ちつとも案ずるには及ばぬ事、着きさへすれば萬事は御厄介をいたゞき得る事を安心して、ビスケーの浪に向ひました。常でさへ有名な難所のビスケー、況してや二週間許り前、クリスマスの頃大しけで、幾つかの船は沈められ、燈臺さへも大破損を蒙つたあとの此の航海、如何あるべきかと、マルセーユを立つ時一同非常な心配を致しました。「其の割りでもなかつた」とは、あとでの船員の話ですが、私にとつては古今未曾有の大しけでした。四日の間は生きた心地も無く苦しみ續けの大病人、頭痛鉢巻きして絶食、ゆり上げ搖り下げらるゝ度毎に、身體の節々はたゞ碎かれるやう、成る程世界に有名な難所と云ふ事が、熟々骨身にこたえました。

□私のスープ浴

四日目の夕方「スープだけでも召し上がりませんか今晩は特別なんですから」とボーイは親切に持つて來てくれました。やう〱に起き直つて、スープのコップを受け取り、今しも一と吸ひ吸はうとする途端、ドッと寄せた大浪、アハヤと思ふまも無く、ガブリと顔から頭から胸から寢床から、いやと云ふ程スープをかぶつて終ひました。泣き顔に蜂とは正しく此事、やすんで居てさへ大病人の苦しみなのに、御苦勞様にも起きて顔を洗はねばならず、着物をかへねばならず、寢床を更めねばならず……の難行苦行、而かも大浪は時々にやつて來ます。油斷を見透かしては攻め入る寄手のやうに、其度毎にそつちへバツタリこつちへバツタリと投げ倒されさう、辛うじていきなり其處らにつかまつては、そつちへヨロ〱、こつちへヨロ〱……「あゝスープさへ手にしなかつたら、こんな憂き目は見なかつたものを」と、したゝかに愚癡をこぼしました。

□難所の後

五日目の朝は難所は全く越えてしまひました。同時に私の大病も全快しました。「一兩日後には愈々英國へ」と思へば、元氣百倍、身輕るになつて荷物取り片付け、夕方までには萬事萬端ぬかりも無く爲をはせてしまひました。やれ安心と食堂でピヤノのいたづら、桃太郎さんだの浦島さんだの、鳩ポッポだのを彈いたり唱つたり、一人で大陽氣、然し「昨日の味スープ浴は如何でした？「香はよし、味はよし嘸結構な事だつたでせうね！」「一體牛乳風呂と云ふ事は聞いても居ますが之れは又近頃珍らしいスープ浴！」「珍らしいスープ浴の御利益で、其の御元氣なんですね」と……遇ふ船員船客から口々にひやかされるには大しよげ。部屋の中の出來事、ボーイの外には誰も知る人はあるまいと大威張りに安心して居たら、矢張り天知る地知る人も知りけり、畏くせぬもの「もう降りるんですから、いくら冷やかされても大丈夫」と、私は十五日まだ暗い内からデッキに出て、船の止るのを待つて居ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

風を引いた場合

素人療法の數々（承前）

薄田斬雲

□風引きと神經衰弱

一體風を引き易い人は神經衰弱に多いので神經衰弱の人は、肩が寒いと言ひます。私も肩が寒くて困ります。神經組織が弱くなつて居るので少しの冷氣にも堪へず、直ぐ風を引くのだらうと思ひます。一寸薄着するか又は肌脱ぎになつて肩が寒いと思ふと、さア其の寒さが何時迄經つても直りません。一度は懷爐を當てゝ見ましたが、熱いには熱いが、肩と背の底に氷でも入つて居る樣で矢張りぞく〳〵するのでした。

□頭が唯だ重くなる

私の風引きは、多く輕微なもので、滅多に寢着く事はありません。そして頭が痛むと云ふ事も滅多にありません。唯だ頭が重く感じられて、頭を振つて見ると何か重いものが入つて居る樣ないやな氣持です。何んだか熱がありそうだ、風でも引いて居るかなと思ふ時、私は何時も頭を振つて見るとわかるのです。

□發汗を促すに限る

風邪を早く直すにはどうしても發汗を促す外はありません。床の中で汗を取ると云ふ事は實に〳〵厭やなものです。併し大發汗を促がさないと早く直りません。そこで汗を取るには第一に臥る身體の位置が關係します。背を下にして平臥すると、却々汗が出ません、打俯しか、又は横臥をすると、汗が出易い事は確かです。

□假睡と風邪

假睡すると、風を引くと言ひますが、假睡も、仰向きに平臥すると殊に風を引き易いので、打俯しの狀態は容易に風を引かないものです。私の郷里の勞働者は晝飯後の休息時に一時間位皆な晝寢をしますが、彼等は何れも打俯に胸を下にして臥て居ます。東京の土方人夫など道路工事の晝飯休みに軒下で仰向きに臥て居るのを見ますが、私の郷里の勞働者は決して仰向きに臥ません。私の經驗からしても、仰向きに臥るのが風を引き易く、打俯しは安全です。夫れからモ一ツ不思議に思ふ事は私の郷里の勞働者は頭へ風呂敷樣のものを被り、其上を手拭で鉢卷きして居ます。そしてビッショリ汗を流して休息する時、襦袢を脫いで裸體になつても、頭の風呂敷丈けは取除けません彼等は「頭を裸にすると風を引く」と言ひます。

□三日で直らない時

風は萬病の基と言ひますが、確かに然うです、私は折り〳〵感冒性の腸胃カタルに罹ります。其時は風を引いたと思ふと同時に下痢が起つて併かも其の下痢はうんといきんで思ふ樣に下らずブツ〳〵と絞つて泡が出るのです。之が恐しく頑固なもので、高ずると赤痢の樣になります。何んでも風を引いて、種々素人手當てをしてから三日も經つて直らなかつたら、我慢せず醫者にかゝるのが一番安全です。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十二

一燭光の電燈

經濟に似て不經濟

女高師教諭　近藤耕藏

口私の實驗によりて

メートルに依つて電燈料を支拂ふ時に其の料金の經濟の爲めに、就床の際よく一燭光の電燈に取り替へる事があります。一寸考へて見ますと、一燭光の電燈は十燭光の十分の一の電氣で間に合ふやうに思えますが、實際は案外多くの電氣が費えて居るのです。私が調べた結果に依りますと、炭素線の一燭光の電燈はタングステンの五燭に比しては、電氣を消費する事が遙に多く、十燭光のタングステンより幾かに少ない位ゐの電氣を要するのです。

△一番經濟な方法

一體色の赤い燈火は、白く輝く燈火に比して、不經濟のものであると云ふ事は物理學の立場より證明する事が出來ますが、此の場合は其の學說の尤もいゝ實例を示して居るもので、一燭光の電燈はタングステンの電燈に比して、遙に赤味を帶びた光を放つて居ります。もし電燈が明る過ぎて困るのならば、タングステンの五燭光を用ひて、是を布袋で蔽つたならばいゝでせう。これは前に本誌に御紹介した瓦斯の火を小さく出すと却つて不經濟で、一ぱいに出すよりも少し小さくするのが一番經濟であると同様な理由であります。一般家庭で電氣瓦斯を用ふるに當つて、此の心掛けがあつたら餘程の經濟になりませう。

御値と小賣

どれ程相違があるか

前號で本誌が主張したやうに、御用聞きを廢して、主婦自ら買ひ物に歩くに一番必要なのは、物の相場です、此處に本年二月十三日の直段付の青物の問屋と小賣の相場を表にして、店に出すにはどれ程を掛けて賣るかをお知らせします。これが御用聞きの媒介を經れば、また何割か高くなるのです。

品名	市場直段	小賣直段	備考
練馬大根	十本一束廿五錢乃至六錢	一本一錢乃至三錢	澤庵漬其他漬物專用、刺身の妻
尻北秋大根	十本一束卅五戔乃至六錢	大一本五錢乃至七錢	煮付、糠味噌漬
聖護院大根	丸形一個一錢乃至三錢	大六錢小一錢五厘	煮付專用
細根大根	十本一束三戔	四錢	糠味噌專用
龜井戶大根	十本一束大四錢小一錢五厘	大六錢小二錢五厘	糠味噌專用
京菜	六本十五本一束十五錢乃至廿五錢	大一個七錢小二錢	白莖上等靑莖下等
唐菜	十六本廿本一束八錢乃至二十錢	一束小十錢大廿七、八錢	よく縮みたるもの上等
小松菜	一把二錢乃至三錢五厘	三錢乃至五錢	葉の廻りに縮目のあるものは葛飾郡産にて上等丸葉のものは下等
爪哇馬鈴薯	一貫目約二升十三錢	十七錢	近頃は北海道、靑森產白色
同上赤	一貫目約二升九錢	十三錢	東京附近產
甘藍	一貫目二十錢	一貫目三十錢	北海道產
玉葱	一貫目二十二錢	一貫目三十錢	北海道產
ほうれん草	一垂三厘乃至六厘	一垂五厘乃至一錢	荏原郡產
甘藷	一貫目八錢乃至十二錢	一貫目十錢乃至十五錢	滑かなるものは甘味少なし
里芋	一貫目約二升十三錢	一升八錢乃至十錢	圓形は美味晩成長形は下等早成
人參	廿五本一口四十錢	一本三錢	北豐島郡產
天王寺蕪	大一個四錢	大一個七錢	荏原郡產
聖護院蕪	一個五錢	一個七、八錢	荏原郡產
小蕪	大七つ一束一錢五厘小十一一束六厘	一束二錢一束一錢	南葛飾郡產
蓮根	五本一束四十錢	一本十五錢	

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

春先の洋傘の手入

くれ羽

□砂埃の多い時

春先砂埃の多い時用ゐた洋傘は、しまひます前に、必ず擴げて柔かいブラシで塵埃を拂つてから袋に入れてしまひます。埃によごれた儘しまひますと色を惡るくするばかりでなく、地質も弱るものです。

□汚點のついた時

洋傘に汚點のついた塲合には、絹地ならば石鹸水を薄くこしらへて、海綿で能く洗つた後、水に少量の酢を加へてブラシにつけてよく全體に及ぶやうに浸して後、清水を、むらなく注ぎかけて擴げたまゝ柄を吊して蔭干にします。木綿の色物の塲合にはタンニン酸を溶いて傘にひき、一度乾かして後其の汚點の處をむして石鹸水で洗ひます。

□洋傘を入れる袋

洋傘をいれる袋は買つた時入れてくれますのは、ぎつちりと細く出來て居ますから幾度も出し入れする間に、傘の布がいたんでいけません。傘の袋は成る可くゆつくりと太く金巾のやうな柔かい糊氣のない布で柄まではいるやうなのをこしらへて用ゐます。袋に入れた洋傘は、傘入れの箱などにいれたり、棚の上などに置いてはいけません。袋のまゝ吊るしておくのが洋傘の「持ち」のために一番ようございます。

今週の惣菜

櫻井ちか子

□薩摩薯の吉野煮　薩摩薯の中位の筋の無いのを撰び、皮を剝き二分位の厚さの輪に切りて、鹽水に三十分程つけたる後、水洗ひして鍋に入れ、其の材料の半を蔽ふ位の湯を加へ、煮えた（壞れない處を程度として）頃先づ砂糖を加へて一寸煮、更に鹽と醤油とを入れて煮ます。味の加減は汁下地より少し辛目位ゐが宜敷う御座います。煮えましたらば鍋を一旦下し薯を壞さないやうに杓子で皿或は鉢の中へ掬ひ出し、後の汁の中に水で溶した葛を掻き交ぜながら入れ、一寸火にかけて、葛が煮えましたら熱い處を前記の薯に掛けて出します。普通のお薯より上品で、小皿盛等に致しますと客にもすゝめられます。

□八ツ頭のそぼろ煮　八ツ頭の大きいのを皮を剝きましたらば、丸のまゝ九分位の厚に切り、茹て柔かくなりましたらば、一旦湯から上げてよくぬめりを取り、水七分醤油三分の割合の露を、其の材料が蔽はれる位ひ入れ、砂糖を加へて柔かくなる迄壞さないやうに煮ます。煮えましたらば薯を取り出し、殘の露に引肉を內れ、一寸煮て露と一所に薯に掛けて出します。

□獨活の胡麻味噌和へ　獨活の皮を剝きころばし切に切り、醤油と砂糖で甘加減に味をつけて冷して置きます。別に胡麻を炊り擂鉢で一通り擂り、砂糖と味噌とを入れて一度擂り交ぜてから獨活を入れて掻き交ぜます。これは出來たてに食べないと水つぽくなりますから、膳に上す際に獨活を交ぜた方が宜敷う御座います。

□昆布の佃煮　昆布をよく洗つて砂をより笊に揚げて置くと柔かになります。此を適宜に切つて鍋に入れ、材料の半分を蔽ふ位に醤油を入れて煮ます。醤油が煮詰りましたらば水を注し、昆布が柔くなる迄斯うして煮ます。少し硬く煮度い時には、水を注すのを一度位に止め、蓋をせずに煮、柔く煮る時には、蓋をして煮るのです。

□糸蒟蒻と豚の煮込み　糸蒟蒻を一寸位に切り、鹽で揉で後水洗ひて、細かに切つて豚肉と共に鍋に入れ煮ますと、兩方から汁が出ますから、これに醤油と砂糖少量を加へて煮ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

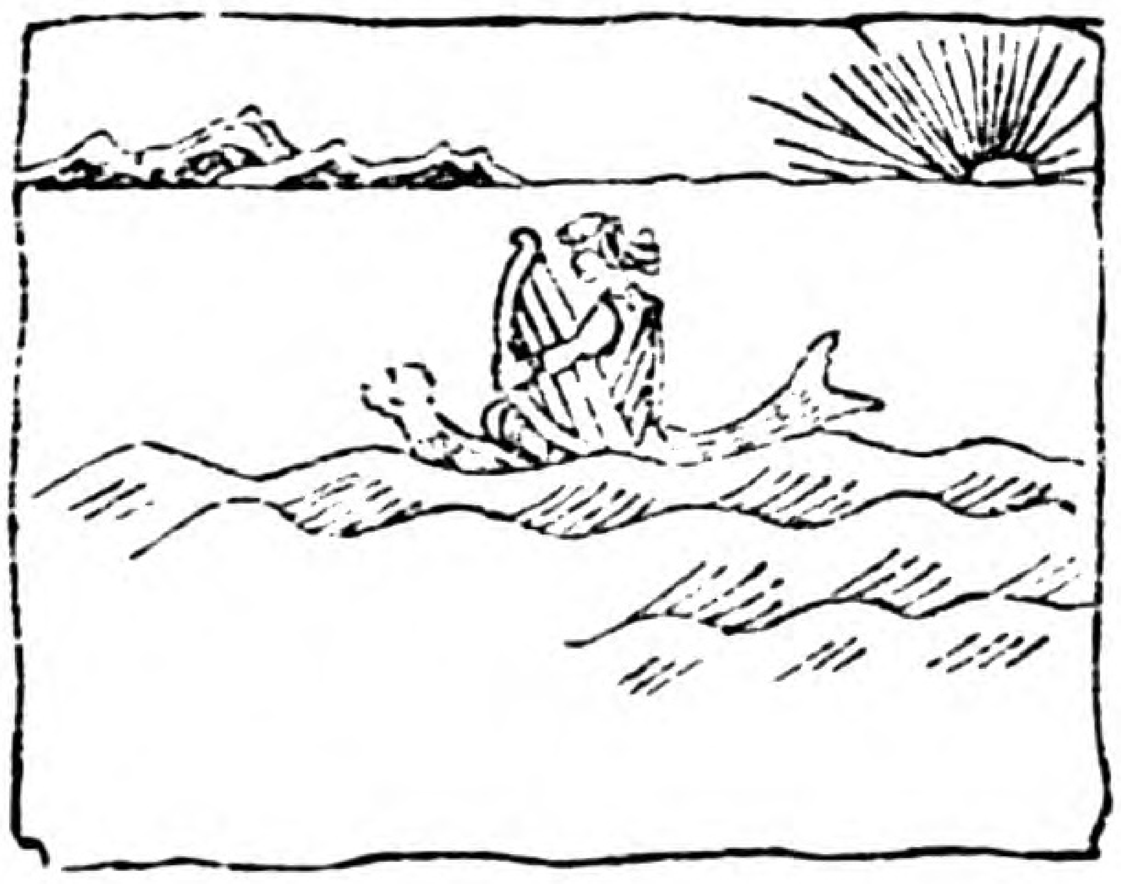
世界史お伽噺

音樂者アライオン
海豚に救はる(二)

斬雲

すると、水夫共がコリンスの町へ入ると直ぐ、國王ペリヤンダー樣からの役人が參りまして、早速出頭せよとの事に一同不思議に思ひながらお宮へ參りますと、國王樣は大變難かしいお顏をして、「貴樣達は私が抱への音樂者アライオンの便りを聞かないか」とのお尋ねです、一同悸ッとしましたが、互に目配せ致しまして、「然れば其のアライオン樣は、目下伊太利の國で大變な評判で、お金も澤山に出來、仕合せに暮らして居ります。手前共も伊太利を出帆する前夜に其の演奏會を聽きに參りましたが、其の巧妙い事は確かに世界一、未だに其音色が耳の底に殘つて居ります。アライオン樣もやがては此方へ歸つて來れるとのお話で御坐いました」と空々しい事を申しました。

するとどうでせう、次の室から襖を一杯に開けて出て來ましたのは紛れもない彼のアライオンです。前の日船から海へ飛込んだ時其儘の美々しい衣裳を着て居ります。水夫共は吃驚りして之は夢だらうと思ひましたが、夢でも幽靈でもない本物のアライオンが、きつと水夫等を睨み「下郎共僞りを申す勿。前日の事はよも忘れはしまい、私は悉皆王樣に其事を申上げてある、手前共は、私をとうに死んだ事と思ふて居るだらうが、然うではない、なる程私は手前共の見て居る前で海中へ飛込んだ、處が、私の樂の音に聽き惚れてか、忽ち一頭の大きな海豚が現はれて、其背に私を載せ海上を泳いで、無事此地迄私を送つて呉れた。



私は音樂を解する海豚の情で無事に生還つたのぢや。手前達は强慾にも私の樂の音を聽いたり、私の金を奪つたり、私の生命迄も取らうとした爲めに天罰覿面ぢや。ぢやが、私は手前共を殺さうとは思はぬ、生命丈けは許してやる。」

水夫共は之を聞いて面色土の如く一言もなく役人に引立てられまして牢屋に投げ込まれ終生懲役の身となりました。

又アライオンが海豚に助けられた話は後の世の語り草となり、普く世間へ傳へられ、コリンスの國では今もアライオンが盛裝して竪琴を抱へ、海豚に乘つた小さい可愛らしい銅像が建つて居ると言ひます。

子供の智慧

□れてゝが痛い

文惠さん(四)は『おテ、が痛いよ』と泣いてゐましたが、『それではお豆をおあがり』と母ちやんから言はれたので、ころりと默り豆を出して來て、その豆を手へおしつけて、『おテ、の痛いのが癒ちやつた』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ウオヅオスの妹（一）

△兄妹の親しみ

詩人ウオヅオスといふと、直に妹のドロシーの名が思ひ出される。風景明媚な湖水の畔に、質素な庵を結んで、影と形のやうに相伴ふた兄妹二人の姿が思ひ浮べられる。ウオヅオスは、彼女を彼の詩神と稱へた。兄妹は英國カンバーランドのカッカーマス村に、千七百七十年と千七百七十二年とに二つ違ひで生れたのであつた、彼等は幼時父母を失ふたので、他の兄弟と三人の叔父に分ち育てられた。それで兄妹は一所に育つたのは極く僅かであつた。しかしその短かい月日の間、彼等は蝶を追ひかけたり、小鳥を捕へたり、いつも手をつないで驅けまはつた。

△絶望の淵に沈んだ兄

ウオヅオスは長じてケンブリッヂ大學に學んだ。そして卒業の時は佛蘭西革命の眞最中であつた。彼は當時の青年詩人バイロン、コレリッヂなどゝ共に、革命軍に投じた。彼は此革命によつて、不義不正は奇麗に跡を絶つてしまふものと考へた。そして美しい淸らかな世界が出來て來るに違ひないと信じて疑はなかつた。然るにその結果の豫期に反したのを見て、ウオヅオスは極端な失望に陷つた。人間の墮落の極りなきを見て、彼の心は快復のおぼつかないほどに傷けられた。彼は絶望の極、厭世家になつてしまはうとした。

△賢き妹の導き

此時彼は二十五才であつた。厭世觀に捕へられた彼は、自分の天職を發見する事が出來ないで苦んだ。軍人にならうか、代言人にならうかといろ〳〵に迷ふて定まらなかつた。此の憂悶の中から彼を救ひ出して大詩人にしたのはドロシーであつた。ドロシーは兄の手を取つて此暗黑から引き出した。そして自然の懐の中へ彼を誘ひ出した。汚れに染みた人間と人間世界の外に、別に雄大な、典雅な、そして淸麗な自然世界のある事を彼に示した。そして困憊した彼の心に明かな光を投げて、彼の天職の何たるかを知らしめた。ドロシーの炯眼は、夙に兄の天分を看破したのであつた。

△困難な家計をとる

その頃ウオヅオスの友人が死に臨んでその遺産數百磅を彼に贈つた。彼は之を天惠の如くに喜んだ。そして妹と共にドウセット州のレイスダウンに小屋を得て、こゝで筆を取りはじめた。次にソマセット州のアルフホックスデンに移つた、それから兄妹相携へて、暫らく獨逸に遊んで、歸國後千八百二年にエストモアランド州のグニーアの湖畔に住居する事になつた。僅かな所持金は僅少であつた。彼等の所持金に依賴して生活する彼等は、非常の節約をしなければならなかつた。そして此の困難な經濟はドロシーが一切受持つたのであつた。（翠子）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

全譯 何處へゆく（十二）

松本雲舟

訪問の八

ブラウチウスは一寸前に風邪を引くなと注意したことを忘れてしまつて、シシリーのことを話し出した。シシリーには領地と廣い田地を持つてゐるので、非常に愛着されてゐる。幾度もシシリーに移つて、靜かに餘生を送らうと想つたことがあると語つた。「澤山冬を越して白くなつた頭をしてゐる者には、この上霜の必要はありませんからな。まだ樹の葉も落ちませんし、都の空も愛らしく笑つてゐますが、葡萄蔓が枯れて、雪がアルバン山に落ちて、鋭い風の神がカムパニャを見舞ふやうになつたら、家族全體田園に引込まうかと思つてゐます」。

「では、羅馬を去らうとなさるのですか」とヴイニチウスが吃驚した。

「永い間さうしたいと思つてましたので」とブラウチウスが答へた。「もつと靜かな安全な日を送りたいですからな」

彼は又シシリーにある庭園や羊の群や蜂のぶん／＼と飛び交ふ青々とした山の中に隠れた家を自慢し出した。けれどもヴイニチウスは田園の光景に氣を奪はれず、唯リジヤを奪ひ取られることを考へてゐたので、唯ペトロニウスを救ひの神と頼んで、其の居る方を眺めた。

其間にペトロニウスはポムポニヤの側に坐つて、日沒の景色や庭園や庭園に立てる人々を眺めてゐた。桃金孃の暗い背景に對して、人々の白い上衣は日沒の金色の反映を浴びてゐた。夕の光は地平線を紫に染めてゐたのが、菫になつて、それから青白色になつて行つた。大空の頂は薄紫になつた。イトスギの暗い影法師は晝中よりも輪廓が判然として來た。人々も樹木も庭園全體も夕の靜けさに支配された。

十六

ペトロニウスはこの靜けさ、殊に人々の靜けさに驚いた。ポムポニヤ、ブラウチウス、息子のアウルス、リジヤの容貌には、ペトロニウスの周圍に、日毎に、もつと正確にいへば、夜毎に見る人の面には決して現はれぬ或る物があつた。茲に居る人々の生活はいはゞ光明を以て全心を充たし、平和と靜穏に漬されたのだ。ペトロニウスは絶えず美と歡樂を求めてゐたのだが、未だ嘗て發見しなかつた美と歡喜がこゝにあるのを見て不思議な想がした。この想を隠すとが出來ずに、ポムポニヤに向つて恁う言つた。

「あなたの世界はネロの支配してゐる所とは違ふやうに想ひますがな」

ポムポニヤは細い面を夕の光に向けて、簡單に答へた。「世界はネロの支配する所ではありません、神さまの支配する所です」

談話は途切れた。食堂に近き列樹路に老將軍、ヴイニチウス、リジヤ、小さいアウルスの足音が聽えた。人々のまだ來ない前に、ペトロニウスが問ねた。「あなたは神々をお信じなさるといふのですかポムポニヤさん」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「私の信ずる神さまは一柱で、全能で、慈悲に滿ちてゐらせられます」とアウルス・プラウスの妻が答へた。

歸途の一

「ポムポニヤは一柱の神、全能にして慈悲に滿つる神を信じてゐるさうだ」とペトロニウスはヴイニチウスと共に駕へ乘つてから繰返へした。「その神が全能ならば、生も死も其の權內にあるのぢや。又慈悲に充ちてゐても、死をもてらすのぢや。それならどうしてポムポニヤはジユリヤを悼んだらう。ジユリヤを悼むのは、其の神を批難するのではないか。私は辨證學ではソクラテスと同等と想つてゐるのぢやから、赤髯の猿とこの事を議論することにしやう。女といふものは三つ四つの靈魂を持つてゐるさうぢやが、どれもこれも理窟の解る靈魂ではないさうぢや。ポムポニヤは大なる宇宙の精神に就てセネカやコルヌタスと議論せねばなるまい。クセノフハーネスやパルメニデスやチエノーやプラトーは籠の鳥のやうに闇黑界で疲れてゐるだらうから、其の亡靈を召寄せさすのぢやな。私がポムポニヤやプラウチウスに話したいことは別にある。露骨に我々が訪ねた譯を話したら、銅の楯を棒で叩いたやうに其の氣位を轉倒させるだらうな。だから、私は話さうとしなかつた。話せなかつたよ。ヴイニチウス、いかに私でも話せなかつたのぢや。孔雀はいかにも奇麗な鳥だが、其の聲たるやいかにも鋭いのでな。其の泣き聲が、私は怖ろしい。ぢやが、お前さんの趣味は感服ぢや。正に薔薇なす曙の女神ぢや。それから私は何を思ひ浮べたと想ふ。春ぢや。それも伊太利の春ではない。林檎の樹の花が滿開しなかつたり、橄欖の樹がいつも灰色をしてゐるやうな春ではない。私が瑞西で見た春ぢやな。若々しくつて、新鮮で、光澤のある綠の春ぢや。この青い日影でーお前さんを不思議とは思はぬよ。戀の女神と戀に陷ちたのぢやからな。プラウチウスとポムポニヤは昔し犬がアクラオンを惱ましたやうに、お前さんを惱ますことが出來やう」

ヴイニチウスは暫らく默つて頭を垂れてゐた。やがて情に嗄れた聲で、「前からリジヤをほしいと思ひましたが、今では私のほしいと思ふ心が益々大きくなりました。リジヤの腕にさはると、焰に卷込まれたやうでした。是非リジヤを自分のものにせねばなりません。私がジウスの神ならば、イオにしたやうに、リジヤを雲で圍みたいです。又ジウス神がダネにしたやうに、雨の姿でリジヤの上に降つてゆきたいです。唇が痛くなるまでリジヤに接吻してやりたいです。腕に抱へて泣かして見たいです。プラウチウスやポムポニヤは殺してしまつて、私の家へリジヤを奪つて連れて來たい。私は今夜睡れません。奴隸の一人を擲らせて、其の呻き聲でも聽きませう」

「氣を落着けなさい」とペトロニウスが言つた。「なんといふ事ぢや。スプラの大工ぢやあるまいし」

●家事文庫の出現　株式會社三育社の經營にかゝる家事文庫刊行會にては、今回澤村農大教授、下田實踐女學校長、佐方、喜多見、大江、安井其他東京女子高師教授諸氏外專門大家二十餘名の執筆と、野朝諸名士の賛助を得て、家事的技能に必要なる衣服、手藝、食物、料理、衞生、看護、結婚、育兒、住宅、家具、掃除、磨物、作法、交際、園藝、經濟等の各科に涉り衞生、經濟の二大主義の下に勉めて理論を避け、實用を旨とし平易懇切に秩序あり、統一せる家事文庫の刊行を企て近く其第一卷として澤村農學博士の食物篇を刊行する由、會則及び內容見本等は本鄕區本鄕三丁目十七番地其會宛往復端書にて申込むべし、會費は毎月金一圓十五ヶ月完成。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊紹介

□「天才と遺傳」

先きに故人となられた原口鶴子女史の遺稿に、其の良人原口竹次郎氏が加筆して出版された大著であります。卷頭には、若くしてドクトル、オブ、フイロソフイーの學位を得て、我が婦人界の記録を破つた鶴子女史の小傳が、良人の繕ひなき筆にしんみりと書かれて居ります。原著は遺傳研究者として、世界に尊重せられて居るサー、フランシス、ゴルトンの書かれたもので、苟も人類の改良を口にする者は、彼の大著なる本書と「自然的遺傳」の二著を繙かずには居られぬと云はれて居るさうであります。全篇を別つて緒論、世評を標準として分ちたる人間の種類、天賦の才能を標準として分ちたる人間の種類、前二章に擧げたる分類法の比較、本書中に使用せらるゝ符號、英國の法官、英國の政治家、英國貴族と人種の興廢、軍人と遺傳、著述家、科學者、詩人、音樂家、書家、宗教家、ケムブリッヂ大學內にて古典研究に於て優勝者となつた人々、漕手力士、總括、世界各國人種の價値、國民の能力に影響を及ぼす要素、遺傳の理論附錄等二十三章としてあります。興味深き原書を流暢なる口語體に譯されて居りますので、專門家計りでなく、一般の人々の多大な參考にならうと存じます。(發行所牛込區早稻田 早稻田大學出版部正價一圓八十五錢)

時事

◉**獨逸の對葡宣戰**　獨逸はポルトガルが同國港灣內に抑留せられたる獨逸船舶引渡を拒絕せる結果同國に對し宣戰を布告せり。(九日發外國電報)

◉**雲南擧兵の眞意**　支那雲南都督唐繼堯氏が、革命以來最初に會見せる一米國記者に答へたる所に依れば、雲南獨立の眞意は袁氏の大統領たるに反對するものにあらず唯皇帝たるを許さず殊に袁氏の子孫が皇帝たるに反對するものなりと。

◉**電車値上確定**　電車賃値上案附議の市會は十四日夜開催され大論戰の後、贊成四十九名反對十九名の大多數を以て可決確定したり。多分四月十五日或は五月一日より値上實施さるべしと。

◉**表彰されし老女**　仙石子爵家の老女西村かず子刀自(六十)は今回井上東京府知事より忠勤四十餘年の精勵を表彰せられ木杯一組を下賜せられたり。刀自は滋賀縣膳所町四西村淸太の長女として生れ十五歲の時京都久邇宮御殿に奉仕し、素子女王殿下の仙石家に御降嫁あらせらるゝに及び、御供申上げ、以來一日の如く忠勤を盡されしとぞ。

◉**救世軍の新事業**　今回救世軍にては婦人救濟の一方法として、內地より誘拐せられて支那に渡りたる婦人を救ひ、又一方には善良なる女中を家庭に紹介せんとする目的を以つて、大連に婦人ホームを、下關、大阪には女中紹介所を新設したり。

◉**淸子の扶助料請求訴訟**　岩野泡鳴氏妻淸子は曩に同居請求の訴訟に勝ちたるが今回新たに淸子及び嫡子民雄兩人の名を以て二辯護士を代理人とし泡鳴氏を相手取り扶助料九百四十二圓の請求訴訟を提起したり。

◉**高木德子の離婚訴訟**　トー、ダンスの明星高木德子は夫陣平氏に對し其虐待に堪へずとて此程離婚の訴訟を提起したり

◉**不正受驗で女學生の自殺**　盛岡師範學校女子部三年生小山くに子(二十)は九日の博物試驗にカンニングしたる事發見され嚴重に戒められたるを恥ぢ翌日朝ナイフにて咽喉部を切斷し自殺を遂げたり同女の父は同縣東磐井郡小梨村小學校長にして昨年御大典に際し表彰されし良校長なりくに子の成績素性とも良好なりしと。

◉**渡米を企てた十六才の少女**　芝區三田四國町二會社員惣太郎三女矢木末子(十六)は八日一圓の金子を懷中して橫濱に到り米國に渡航して女優を修業する機を得るまでと尾上町の職業紹介所に赴きしを其筋の探知する所となり實父へ引渡さる。

◉**春雪**　十一日朝より降雪、積る事三寸。

女學校だより

△**各女學校の卒業式**　▲共立女子職業學校十二日午後一時▲中村高等女學校、女子美術學校、青山女學院廿四日午前九時▲府立第三高等女學校、實踐女學校二十五日午前九時▲日本女子商業學校、東京高等女學校、東京家政女學校、上野高等女學校、同實科女學校、東洋家政女學校二十六日午前九時▲麹町高等女學校二十六日午前十時　▲府立第一高等女學校二十七日午前九時▲東京女子高等師範學校、同附屬高等女學校廿七日午前九時三十分▲日本橋高等女學校二十七日午前十時▲跡見女學校、立教高等女學校二十七日午後一時三十分▲成女高等女學校二十八日午前九時▲淑徳高等女學校二十八日午前十時　▲山脇高等女學校普連土女學校廿八日午後一時▲女子英學塾、聖心女學院、東洋高等女學校、千代田高等女學校二十九日午前九時▲東京女子師範學校、府立第二高等女學校二十九日午前十時▲香蘭女學校、女子學院、日本女子大學、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同園附高等女學校三十日午後二時▲東京女學館三十一日午後一時▲京華高等女學校四月二日午前十時▲高輪淑女學校四月八日午前九時

個人消息

▲**伊達恵以子** 伯爵宗基氏令孃(二六)今回候爵伊達宗陳氏夫妻の媒妁により、海軍中尉伯爵上野正雄氏と婚約整ひ、十五日日比谷大神宮に於て華燭の典を舉げさせられたり。

▲**服部初枝子** （法學博士令孃）(二七)桑港博覽會理事の任務を卒へ過般歸朝せる原田治郎氏と結婚

▲**與謝野晶子** 八日夜男子を舉げ母子とも健全

●**ダリヤ** 府下高田村巣鴨代地三五二二富春園にては歐米各國より最良のダリヤ種を輸入栽培し誠實廉價に同好の華客に頒布するを以て斯界に好評あり

●**家庭教師を求む** 神戸のあるよい家庭で、十二三才の男兒の教育に住み込み家庭教師として、廿七八歳の婦人を求めて居ります。お望みの方は履歴書を添へてお申込み下さい（記者）

●**貸家を求む方に** 雑司ヶ谷の閑靜な處に可成廣い二階家の日當りよい處を十二圓で貸したいと申す方が在ます。希望の方は本社に御申込下さい（記者）

編輯室より

▲世間の人同志では思つた事を遠慮なく云ひ合ふと、是が非でも兎角感情に蟠りが出來易いものですが、本誌の前々號から互に説を述べ合つた田中芳子様は、過ぐる月曜雨の日をも厭はずお尋ね下され、其の問題に就いて、快くなにお話し續ける事が出來まして、誠に愉快な半日を過しました。本誌がかやうな熱心な御友人を持つことを喜びます。▲編輯室の軒に巣くふ鳩が卵を生みました。藁の軟かい蒋を敷いてやらうと、梯子して上つて見れば、ちやぼの卵位の薄鼠を帯びたものです。雛が生ひ立つたと思ふたのはきのふでしたのに、自然の間斷なき歩みに、誠に壓迫されるやうに覺えます。

人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有らゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絶對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財産調査、男女學生品行調査、裁判上の證據調査等の御依賴に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります。但しこれには依賴者が至當と想はれる程の低廉な調查料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい。面會時間は日曜を除くの外午後零時より、午後四時迄です。

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社內（電話番町四五六六番）
人事相談所

婦人週報
（毎週金曜發行）

定價表
△壹部金五錢（但し郵送料五厘を含む）
△一ヶ月（四部又は五部）金貳拾錢
△三ヶ月（十三部）金六拾錢
△半年（廿六部）金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢

廣告料
△特等（表紙の二、四） 金參拾圓
△壹等（表紙の三、白紙前付） 金廿五圓
△貳等（色紙の表側） 金廿貳圓
△參等（色紙の內側） 金貳拾圓

注意
▲御註文は一切前金の事▲郵券代用は必ず一割增の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

發行兼編輯印刷人 小橋三四子
印刷所 東京市京橋區銀座四丁目一番地 東京支店 福音印刷合資會社
發行所 東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地 婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番

英語生徒募集

高等女學校卒業生に適當の各級あり又年長者にして英語初步より學ばれんとする者にも懇切に教授す。家庭的寄宿舍の設けあり。ピアノ個人教授の需めに應ず

英語專門私立 櫻井女塾
本鄉區彌生町三番地
電話下谷六八一五番

肝油服用者之福音

三百球入 壹圓
百球入 七十錢
五十球入 四十錢
送料各八錢

最新式の軟質膠球劑絶對に臭氣もなく美味に飲めるは此肝油球である

諸大醫の賞讃
肝油球の特効
身體の弱き人
かぜ引き易き人
腺病の人
夜盲の人
冷え性の婦人
肺の悪しき人
貧血にて艶のなき人
油氣の少ない人

發賣元 東京市赤坂區田町五ノ一
工場 東京赤坂新町三ノ三十二
藥劑師 富谷宗吉藥局
電話新橋三百十九番
振替東京七〇八一番

體力精力增進に今が肝油服用時期

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

東洋内科醫院

診察毎朝及毎夕但祭日及日曜之他
院長診察 月、金、木午前及(木)午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町 六二番

院長 醫學博士 高田畊安

南湖院

電話ちがさき二番
神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日 午後入院診後應需
診察毎朝但祭日及日曜及土曜之他

クリーニング

は一滴の水を用ゐずして如何なる汚れも殆んど新調同様になります
和洋服 外套 インバネス 東コート ネル・セル・ショール 半襟 毛皮 等のクリーニングと染色を丁寧親切迅速に致します
○局部シミヌキ
○御一報次第參上
各國大公使館
帝國ホテル 御用
日比谷クリーニング商會
日比谷公園停留場際 電話新橋三一〇八

◎産婦人科◎小兒科

宅診午前 往診午後
病室、産室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ
院長 女醫 吉岡彌生
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院
電話番町二二五七

◎生徒募集家族的寄宿の便あり

個人教授 裁縫技藝

●編物●袋物●刺繍●造花●摘細工●縫細工●綿細工●壜細工●儀式用折紙●水引結方
▲入所時間科目隨意
麹町區富士見町五ノ二
大妻技藝傳習所

胃强

胃を丈夫にし消化をよくす
一個 金拾錢也
改良はあくまで弊店の主義に候も胃强に就いては此上改良の餘地なきまでに相成り居り候
小石川高田老松町十七
振替口座三一六九二
發賣元 目白藥局

腦神經精神病

院長 ドクトル メヂチーネ 齋藤紀一
青山腦病院 東京赤坂
（帝國腦病院改）
電話芝二七四五・二六六五

産科、婦人科、小兒科

東京府内藤新宿番衆町卅一番地
女醫 井出茂代
電話番町三六七七番

齒科

ドクトル 富田貞一
日本橋區高砂町六
（久松町停留場より西一丁）
電話浪花五四〇五

美妙水

園藝大家 實驗 千葉晩香先生 發見
長崎藥學士 岡村繁先生 製劑
大瓶 金廿五錢 中瓶 金拾五錢 各送料 金八錢宛（海外は別送料）
◎美妙水の著能 凍傷。濕疹・疥癬 其他 ▲虻 蜂 ▲南京蟲等に螫刺され
發賣元 横濱市青木町輕井澤一九五五 龍明堂千葉せい
（振替東京壹六五四參番）

京都染物

東京市本郷區湯島新花町八番地
井筒屋支店
中村榮次郎
電話下谷五六七四
（御注文の節は御一報被下候へば早速御伺可申候）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

西哲曰ク

修養なき婦人は匂なき花の如し

書籍は學識を廣むる手段なるのみならず、又室内の装飾品なり

教育なき妻は家具同様なり

汝の此世に來りしは生活の爲めのみならず又讀書するが爲めなり

家事文庫刊行會々員募集

著者

（イロハ順）

東京女子高等師範學校助教諭 伊藤くら子
東京顯微鏡院副院長 石原巽
日本女子大學校家事科主任教授 井上秀子
東京女子高等師範學校教諭 甫守ふみ子
佐藤高等女學校長 戸野みちゑ子
東京市衛生試驗所長醫學博士 遠山椿吉
大妻技藝傳習所長 大妻一惠子
東京女子高等師範學校教授 大江壽美子
東京看護婦會長 大關ちか子
東京女子美容法研究會長 小口美知子
東京生花研究會長 尾崎恒子
共立女子職業學校講師 龍澤潭

青山女學院講師 塚本はま子
東京家政研究會主幹 中澤美代子
東京女子高等師範學校助教諭 上村百代子
帝國婦人協會實踐女學校教諭 野田つな子
山本產科婦人科醫院長醫學士 山本惠三
東京女子高等師範學校教授 安井哲子
東京府立工藝學校教諭 深見久七
東京女子高等師範學校教諭 有川久江子
東京女子高等師範學校教授 佐方鎮子
東京帝國大學農科大學教授農學博士 澤村眞
東京女子高等師範學校教授 喜多見佐喜子
帝國婦人協會實踐女學校長 下田歌子

特色

▲本文庫は專ら日常家事に必要なるもののみを撰み、勉めて理論を避け實用に重きを置きて編著せるものなり。

▲本文庫は著者が何れも斯道の大家にして、多年の實際的研究と經驗による知識を傾注して、特に本會の爲に執筆せられたる者なり。

▲本文庫は多くの精密なる圖書を挿入し、文章を平易にし且漢字には總べて振假名を附し以て理解と通讀の便を圖れり。

▲本文庫は家庭に於ける家事科自修自學の指導者を以て自ら任ず。

▲本文庫は學校に於ける家事科教授上最善の資料なり。

▲本文庫は主婦の顧問、女學生諸子の師友なり。

第一編「食物」澤村農學博士著　四月三十日發行

會則摘要

毎月一回配本十五ヶ月完成
會費　毎月金壹圓
入會金　壹圓（最終會費に充つ）
第一卷四月三十日發行
申込期限四月二十日限
會則内容見本往復端書にて御申込次第送呈す

申込所　東京市本郷區本郷三丁目十七番地　振替口座東京二五二一二番　家事文庫刊行會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA